

タイトル	送別の辞(退職記念)
著者	追塩, 千尋
引用	北海学園大学人文論集, 42: 1-2
発行日	2009-03-25

送別の辞

人文学部長 追 塩 千 尋

2009年3月31日をもって、日本文化学科藤村久和、英米文化学科土屋博の二教授が停年で御退任されることになりました。両教授御退職にあたり、一言送別の辞を述べさせていただきます。

藤村教授は小学校教員・北海道開拓記念館館員を経て、1984年に本学教養部に着任されました。その後教養部廃止に伴い、1998年より人文学部所属となりました。人文学部の在職期間は10年でしたが、通算24年間本学の発展のためにご尽力いただきました。教授はアイヌ文化研究の第一人者で、研究方法は現在のアイヌの民俗資料の収集にとどまらず、歴史学・考古学の成果を積極的に取り入れ、アイヌ文化の特質を解明する、という幅の広いものであります。開拓記念館の館員でもあったことから、その経験などを生かし本学では特に学芸員課程の運営や博物館実習の実施などにご尽力いただきました。

先生は少々浮世離れしたところがあり、我道を行く、という姿勢を貫いたお方でした。ただ、学生指導は熱心で、学業不振に陥り登校しなくなった学生のもとに自ら赴き、膝を突き合わせて話をする、といった場面をしばしば目にしたことが印象に残っています。近年その風貌は仙人を思わせるものがあり、世俗を超越した生活ぶりにますます磨きがかかってきたように思われます。ご退職後もお元気で仙人の様に長寿を保ち、我々後学のご指導をお願い致したく存じます。

土屋教授は35年に及ぶ北海道大学文学部教官を経て、2002年に本学に着任されました。それは懸案であった英米文化学科の大学院設置のための要の教員の一人としての要請でもありました。その後英米文化は博士課程の設置も順調に進みました。本学の在職期間は7年間と長いものではありません

ませんでした。その間英米文化学科の中心的教員として学科の運営、また大学院の充実のためにご尽力いただきました。学内委員では就職委員を長く勤められました。これらの御労苦に改めて厚くお礼申し上げます。

ご専門は宗教学でキリスト教を中心とした教典研究が主ですが、その関心・視野は宗教学の領域を超えて古今東西に及んでおります。その造詣の深さは大学院の全体ゼミにおける発言（それも大変元気の良い）によく現れていました。発言という点では、教授会などで議論の方向性が混乱したり不透明になったときには、常に一定の方向性を示す発言をされ、助けられたことが印象に残っております。近年思わぬ病に見舞われ、十分な体調でないままに停年を迎えられることは気がかりではありますが、ご退職後もご健康にご留意されることを切に祈念いたします。

学識・経験豊かな両教授が本学を去られることは残念ではありますが、ご健勝と今後のますますのご活躍をお祈りし、送別の辞に代えさせていただきます。